

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400407		
法人名	(有)アテンド		
事業所名	グループホームすかい (藤ユニット)		
所在地	静岡県伊東市八幡野1759-800		
自己評価作成日	平成29年2月24日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2270400407-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という理念のもと、ご本人の様々な感情に寄り添いながら入居者様と馴染みの職員が人間味ある関係を作れるように努めております。それぞれの方の残存能力を出来るだけ維持していただくため洗濯干しや、縫物、食器拭きや床のモップがけなど、出来る家事を一緒にやっていただいたり、手伝っていただいたりしています。また、強制ではありませんが、午前中に「しぞーかでん体操」や言葉あそび体操、午後には、童謡の合唱や体を使ったレクリエーションなど1日のなかで、皆さんと一緒に過ごす時間を設けることで、生活のリズムにメリハリをつけられるようにしています。ご家族と外出されたり外食される方々もおり、色々なかたちでご家族様もサポートして下さっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階からは桜の大木、1階はデッキベランダ越しに藤棚がまるで事業所の守り木のように迫り、目を和ませます。一昨年12月に代表者の交替があり、①バーベキューには地域包括支援センター、八幡野副区長も顔をだしてくださって「地域のひととともに」への実現に向け第1歩を踏み出した②モニタリングシートが簡潔になって実行しやすくなった③すかい新聞「そら」が復活した④運営推進会議の隔月開催が叶った⑤役割と責任、報連相が明確な組織図を以ての運営が出来ている、との向上点も生まれ前進しています。変化に難儀も多々あったかと推量されますが、自宅から持ち寄った椿の鮮やかさが職員の意欲を物語っているかのようでした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という理念に基づき、入居者それぞれの希望、要望を出来るだけ受け止め、職員と入居者が、疑似家族として安心して生活できるよう努めている。	ユニット間で別々に申し送りをおこない、また社内研修も毎月実施していますが、理念の復唱はありません。ただし、利用者が職員に寄せる信頼と情は充分受けとめられ、実際には「疑似家族として、安心～」が成されていると受け留めました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	昨年は、花火見物、他施設の納涼祭には、残念ながら参加できなかったが、恒例のガーデンバーベキューは、地域や家族を交え開催することができた。紅葉狩りに出かけ外食したり、初詣にも出かけた。ボランティア受け入れに関しては、現在、ハーモニカの方のみなので 今後、色々試みたい。	代表者が代わってからまだ日も浅いの、バーベキューには地域包括支援センター、八幡野副区長も顔をだしてくださって「地域の人とともに」への実現に向け第1歩を踏み出しています。散歩の犬が通るのを心待ちにして、毎朝窓から挨拶する利用者もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や今後の参考にと訪れる施設見学者に対し、助言、アドバイス等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より2か月に1度の運営推進会議を開催。地域包括、行政、八幡野副区長、家族に参加いただき、意見交換を交わし、サービス向上に活かすよう努めている。	すかい新聞「そら」にも次回予定を告知し、また八幡野副区長や家族にも協力を得て、隔月開催できています。会議では「事故への取組みなどを織り交ぜ、議事録も見やすく作成しており、行政にも届け出ています。	(家族と個人情報に係る同意書をとったうえで)日頃の様子がよくわかるように写真回覧やプロジェクター発表があることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも毎回参加いただき、事の内容により相談、アドバイスを受けている。	運営推進会議には市役所高齢者福祉課、地域包括支援センター職員が足を運んでくださり、法人が新たに着手する小規模多機能事業所についても親身な助言があることを記録から確認しました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は、入居者が自由に近隣散歩できていたが、事故リスクの観点から、やむを得ず、職員同行に切り替えている。玄関の施錠はしていない。身体拘束については、社内研修により、指導し、職員周知している。	玄関、ユニットに施錠はなく、玄関の出入りはチャイムが鳴る仕掛けがあります。毎月1回の所内研修会を実施し、身体拘束排除や成年後見制度を含む「倫理・法令遵守」研修を昨年6月におこなっています。	調査訪問時にも独りで出かけてしまった利用者がいました。自由な反面リスクもあるため職員間の連携について改めて話し合う場を設けるとなると良いと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、社内研修により、職員指導し、理念にも謳っているように、尊厳に重きを置き、入居者の身体変化に十分観察注意を払い、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の内容については、社内研修により、職員周知。現在2名の方がこの制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要状況に応じて、必ず行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回のすかい新聞や運営推進会議、毎月のお便り、ご家族面会時には、近況報告とともに意見、意向をお聞きし、ケアプラン等に反映している。また、緊急時には、ご家族と密に連絡を取り合っています。	家族アンケートには「代表者交替があったのに(1年経ても)一度も挨拶がない」との不満が挙がっていて、また管理者の耳にも常から届いているものの、未だ改善されていません。事業所としては毎月の請求書に写真付便りを同封して情報共有に努めています。	代表者が挨拶できない理由があるなら明瞭に家族に伝え、早期に不信感を払しょくすることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在、職員勤務時間の変更等により、全体会議の開催はできていないが、常日頃より、職員の意見や提案を聞き、反映させている。	理念を掲げた組織図に則り、役割と報告・連絡・相談の系統が明確となり、当初慣れなかつたりレーションも今では浸透しています。個人目標を半期で見直し、結果は本部に送られますが、個人面談を位置付けてはいません。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前の体制を変革し、役割分担を決め、職員一人ひとりが、責任を持って業務に携われるようにしている。状況に応じて、部下面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高齢者、認知症介護の基本姿勢はもとより、介護のプロ意識の向上に繋がるように、日々の状況指導、内部研修や、外部研修の参加推奨に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年末の挨拶まわりを実施。訪問先では、今後の相互訪問の約束を交わすことができた。パンフレットやすかい新聞の配布。まだまだ交流とまではいかないが、今後の課題でもある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、在宅訪問し、事前アセスメントを行い課題を抽出し、入所後、環境変化の戸惑いから不安、心配事が可能な限り軽減できるようかわりを多く持ち、訴えやすい環境の場を提供し、以前の生活ペースに近い状態で過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居中に込み、事前アセスメント時に、家族の取り巻く環境、困っている事等を予め把握し、入所の際は、ご家族はどのような生活スタイルを希望しているのかケアの方向性を確認している。また、面会時には、家族から見た入居者の様子を確認し、より良いサービスが提供できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少人数のアットホームな施設であるため、個々の入居者にかかわる時間にゆとりが持て、個人の希望、意向等に添うサービスを提供している。また、一方的な介護を行うのではなく、機能レベルに見合った何かを一緒に行う事で喜びを分かち合い信頼関係を構築している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後、本人と家族の絆が途絶えないように、いつでも面会、外出、外泊等が気軽に行えるよう積極的に推奨している。イベント等の参加はもちろん、お手紙や年賀状の交換、電話での連絡も自由に行えるよう取り計らっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記同様	信仰で他県にでかけたり、家族と外食したりとこれまでの関係をそれぞれが続けています。庭を掃除したい人には長靴等の装備を用意し、縫い物が得意な人には雑巾縫いをお願いし、化粧品や珈琲など好んで使っているものは職員が依頼を受け買ってきています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の入居者の性格や生活パターンから馴染みの関係が形成されている。特に過度の認知症を患っている方は、孤立しがちなため、適宜、職員介入のもと、他者との交流が図れるよう支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何らかの事情により契約が終了し退去されてもホームに來設、外出先でご家族とお会いした時は可能な限り相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望は違うため他者と共同生活を送っていく上で弊害がなければ可能な範囲で意向が実現できるように努めている。他者に影響を及ぼす場合は、本人に理解できるように試行錯誤の支援を繰り返し行っている。	キーパーソンからの聞き取りに用いる「個別生活特性シート」が在り、その情報を集約した「個人カルテ」が作成されており、職員に周知されています。自宅から名入りの箸や使い慣れた湯呑を持参する人がいることも視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前アセスメントをもとに、生活パターンを把握し、入居後の日常生活の様子の中から何か問題点が発生していないか状況把握に努め、以前の暮らしに近い生活が維持できるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の入居者の暮らし方に先入観を持たず、その生活変化に注意し、状態に見合ったケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンス、モニタリング、介護計画の実施、必要時は医療職の意見も参考にし、ケアプランに反映している。突発的な事に関しては、緊急カンファレンス、小さな事でもショートカンファレンスを開催し状態と対応の共有を図っている。また、医療機関の情報、家族の意向についても面会時、急変時は電話連絡により意向確認の反映に繋げている。	年間研修に介護保険法も組み込み、また定期的に留まらずショートカンファレンスもおこない、全般的に本件に熱心です。本人の言葉がそのまま記載され、サービス内容が的確で、家族にも理解しやすい介護計画書を確認しました。	サービス担当者会議には職員のほか看護師が加わることもあり、意欲が覗えますが、家族が入ることも視野にいれていくとなおよいと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には時系列で詳細内容を記載するようにしている。また、必要時は記載事項を参考に定期、緊急カンファレンスを開催し、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	口頃から入居者の様子、家族の取り巻く環境を察し介護のやり方には、白、黒といった明確な答えはなく、グレーである事を念頭に試行錯誤しながら、問題解決の方向性を模索し状況によってはマニュアルに捉われないことなく臨機応変な対応が出来るよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるよう可能な範囲ではあるが、地域行事への参加を行っている。また、不定期ではあるが、ハーモニカボランティアの方が慰問に来てくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に現在のかかりつけ医を継続するか、当ホームの協力医における往診に変更するか意向を確認、また、協力医の専門分野以外の病気に関しては引き続き家族対応で継続受診して頂けるよう説明している。病状により必要時は他の専門病院受診介助、家族による受診介助依頼と必要に合わせて対応している。また、24時間体制、往診も受けている。	従来のかかりつけ医を家族の付き添いで続ける1名は、「(忙しくて)受診支援でもないし外食も一緒にできないんで」との家族の要望からです。それ以外は全員協力医に変更していますが、専門医の通院介助も家族が難しければ職員が業務を調整しておこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パート正看護師1名体制。介護職員は日々の様子を申し送り等で、看護師に伝達。医療的な事に関して具体的なアドバイスをもらい、初期対応、入居者の健康維持継続が図られるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は適時面会に伺い、病状の確認。長期入院における認知症リスクを避けるためにソーシャルワーカー、看護師等と密に連絡を取り合い情報収集等に努め、必要時はDrの意見も伺い早期退院に向け、いつでも受け入れできる体制作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にご家族等の意向確認、以降重度化となった場合、状態の変化に合わせて協力医と連携を図り終末期に向けた看取りを希望される場合には、ホームの看取り内容を紙面にて説明し、意志確認のもと同意書を交わしている。	「このように看取る」と、事業所の明確な方針も家族に理解してもらい、契約時に緊急時対応とともに重度化の合意書を家族と交わしています。ここ1年看取りはありませんが、気持ちは時々変わるため、都度話し合うことを大切にしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者急変時の対応手順については、いつでもわかるようにスタッフルームのコルクボードに貼り付けてある。また、事故対応マニュアルの書式はすぐ取り出せる状況に配置し、社内研修として、事故発生時対応の勉強会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中、夜間想定避難訓練を消防署、防災設備業者の協力を得て実施している。また、消火器の取り扱い、非常通報装置等の使い方についてもその都度説明を受け実地訓練を行っている。各階には緊急連絡網や避難経路図を貼り非常時の受け入れ先として近隣の特養と契約書を交わしている	年2回避難訓練をおこない、火災報知器、119番通報専用電話機、火災受信機、消火器、スプリンクラー機器取扱い等も含んでいます。防災設備業者も加わり、「訓練内容詳細」と名付けた訓練設定が確かなことも書面に残っていました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりが穏やかで安心した生活が送れるよう言葉遣い、対応についても十分配慮したケアとなるよう環境も含め配慮している。接遇の在り方についてもその都度職員指導している。	理念「疑似家族として、安心～」を反映し、以前は「～ちゃん」づけがOKでしたが、現在は「やめましょう」ということになっていて、職員全般に丁寧な振舞いがみられます。食事のときのエプロンは手作りで尊厳への配慮が感じられます。	トイレや脱衣室の消耗品の氏名はインシヤルに替えるか、目隠しカーテンをおく等プライバシーへの配慮を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情などで思いをくみ取り一人ひとりの希望や意向が、様々な場面で確認出来る配慮、その中で可能な限り対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望する内容によっては全てその方に合わせることは出来ないことも多いが、その日、その時の個人の意思確認を尊重しながら個人ペースに沿う支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室を利用。男性では床屋にお連れしたりして整容に配慮。お化粧をされる方の化粧品の購入支援とその人らしい生活維持を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの機能に合わせ食事作りの下準備や食後の後片づけ等、入居者間での役割分担を生かしながら共に行っている。	ユニット別に職員が調理しています。エプロンをかけて準備、後片付けを役割としている利用者もいます。普段から手作りの安心メニューですが、年間でも正月のおせち料理に始まり、七草粥、恵方巻き、ちらし寿司と続き、唐揚げとケーキのクリスマスまで行事食が豊富です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、彩り、一人ひとりに合わせた形態に配慮。硬い食材については、圧力鍋を利用し柔らかく提供。嚥下の状態によって、刻み食やミキサー食を提供。個人に合わせた量、食事時間にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後と個人の機能に合わせたケアを行っている。今年2月より口腔内チェックシートを導入し、入居者の口腔内環境の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄パターンを把握し支援している。夜間帯はオムツでも、日中は出来る限り、トイレでの排泄支援を行っている。	布パンツとパットの人が大半で、特に「日中はトイレで」を慣行しています。本人の意思で頻回にトイレに行くので皮膚疾患にまでなった利用者がありました。職員が説明したり、(頻回に行くのは)我慢してもらえないかと頼んで改善したケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝起床時には牛乳を飲用して頂き、毎日の食事メニューも食物繊維が豊富な野菜やきのこ類、豆類等を多く取り入れている。また、可能な人には近隣散歩やアクティブでの運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状は一人ひとりの希望に沿った対応とは言えないが、2~3日間隔で入浴できるよう支援している。冬季は3人夏季は4人入浴して頂いている。強い拒否や希望時は、その希望に沿った対応をしている。	週3日を清潔の日安としています。一人毎に湯を入れ替えてはませんが浴槽にかけ流しをするほか、二人目の人からは出る前にシャワー浴をしてもらっています。ほとんどが共用ですが、好みの浴剤やシャンプーを使用している人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりがその時に応じて過ごしやすいように遮光カーテンやブラインドを利用し、採光調節、就寝時間の早い方への配慮として会話のトーン、物音、TV音量の調整等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬カレンダーに1週間分各個人ごと服薬セット。その都度担当者が与薬準備を行い、確実に服薬の支援。各個人薬手帳に処方内容薬シールの保管、処方時の文献管理などにより、各職員が内容確認出来る環境にある。また、Dr状況報告、内服調整の配慮も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、干し、掃除、料理の下準備、食後の後片付け等、それぞれの役割分担で好きなことの家事を行われる。その日の気分次第で無理強いはいしない。また、庭や玄関周りの落ち葉掃きや草むしり等、自然に自主的に行われることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブ、家族と外食外出、希望時の自宅外泊、外来受診等の外出、ホームでの外食外出、地域イベントへの参加、近隣散歩等、可能な限り閉じ込めない介護方針を目指し支援している。	大型車輛がなく、ピストンまたは小分けでの思いつきドライブ、買い物レクをおこなうほか、年間行事で企画だてたものはレンタカーを借りてシャボテン公園、天城の紅葉狩りなどへと足を延ばしています。初詣の神祇神社には車の乗り入れの許可ももらえ、地域の協力を得ています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人の希望と、ある程度所持管理可能な方は、自己管理所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話対応や、希望によって家族への電話、手紙のやり取り等本人の希望に沿った支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に生活環境に配慮し、室温の設定や加湿に留意し、季節の草花を生けたりして、季節を感じて頂いたり、大きな深い音を出して驚かせない等配慮している。	2階からは桜の大木、1階はデッキベランダ越しに藤棚がまるで事業所の守り木のように迫り、目を和ませます。大きな掃出し窓からは冬でも陽の光が降り注ぎ、職員が家宅から持ち寄った椿の鮮やかさが更に増し、キラキラ輝いていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のペースで、和室に寝転んでみたり、ソファでゆったり日光浴を楽しんだり、デッキでお茶をしたり、気の合った同士で会話を楽しんだり、出来るだけ配慮や工夫を心掛け支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、その事の大切さを家族に説明し、出来る限り、馴染みの品での環境作りを依頼している。家族写真を飾ったり、好みの品を飾ったりと思いの環境作りをさせている。	収納力の高いクローゼットがありながらも、チェストや椅子など小ぶりの調度品が持ち込まれ、各室その人らしさが滲んでいます。生きがいの詰んだパン細工の花や人形に囲まれ、習慣とする珈琲タイムでは選びきれないほどのカップを並べる居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置、水まわりと居室のドアの色を変える、夜間に於いてはトイレ入口上に照明を点ける等場所の認識、理解しやすい配慮工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400407		
法人名	(有)アテンド		
事業所名	グループホームすかい (桜ユニット)		
所在地	静岡県伊東市八幡野 1759-800		
自己評価作成日	平成29年2月24日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2270400407-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成29年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という理念のもと、ご本人の様々な感情に寄り添いながら入居者様と馴染みの職員が人間味ある関係を作れるように努めております。それぞれの方の残存能力を出来るだけ維持していただくため洗濯干しや、縫物、食器拭きや床のモップがけなど、出来る家事と一緒にやっていただいたり、手伝っていただいたりしています。また、強制ではありませんが、午前中に「しぞーかでん伝体操」や言葉あそび体操、午後に、童謡の合唱や体を使ったレクリエーションなど1日のなかで、皆さんと一緒に過ごす時間を設けることで、生活のリズムにメリハリをつけられるようにしています。ご家族と外出されたり外食される

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階からは桜の大木、1階はデッキベランダ越しに藤棚がまるで事業所の守り木のように迫り、目を和ませます。一昨年12月に代表者の交替があり、①バーベキューには地域包括支援センター、八幡野副区長も顔をだしてくださって「地域のひととともに」への実現に向け第1歩を踏み出した②モニタリングシートが簡潔になって実行しやすくなった③すかい新聞「そら」が復活した④運営推進会議の隔月開催が叶った⑤役割と責任、報連相が明確な組織図を以ての運営が出来ている、との向上点も生まれ前進しています。変化に難儀も多々あったかと推量されますが、自宅から持ち寄った椿の鮮やかさが職員の意欲を物語っているかのようでした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という理念に基づき、入居者それぞれの希望、要望を出来るだけ受け止め、職員と入居者が、疑似家族として安心して生活できるよう努めD6:E59ている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は、花火見物、他施設の納涼祭には、残念ながら参加できなかったが、恒例のガーデンバーベキューは、地域や家族を交え開催することができた。紅葉狩りに出かけ外食したり、初詣にも出かけた。ボランティア受け入れに関しては、現在、ハーモニカの方のみなので 今後 色々試みたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や今後の参考にと訪れる施設見学者に対し、助言、アドバイス等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より2か月に1度の運営推進会議を開催。 地域包括、行政、八幡野副区長、家族に参加いただき、意見交換を交わし、サービス向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加いただき、事の状況により相談、アドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は、入居者が自由に近隣散歩できていたが、事故リスクの観点から、やむを得ず、職員同行に切り替えている。玄関の施錠はしていない。身体拘束については、社内研修により、指導し、職員周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、社内研修により、職員指導し、理念にも謳っているように、尊厳に重きを置き、入居者の身体変化に十分観察注意を払い、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の内容については、社内研修により、職員周知。現在2名の方がこの制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要状況に応じて、必ず行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回のすかい新聞や運営推進会議、毎月のお便り、ご家族面会時には、近況報告とともに意見、意向をお聞きし、ケアプラン等に反映している。また、緊急時には、ご家族と密に連絡を取り合っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在、職員勤務時間の変更等により、全体会議の開催はできていないが、常日頃より、職員の意見や提案を聞き、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前の体制を変革し、役割分担を決め、職員一人ひとりが、責任を持って業務に携われるようにしている。状況に応じて、部下面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高齢者、認知症介護の基本姿勢はもとより、介護のプロ意識の向上に繋がるように、日々の状況指導、内部研修や、外部研修の参加推奨に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年末の挨拶まわりを実施。訪問先では、今後の相互訪問の約束を交わすことができた。パンフレットやすかい新聞の配布。まだまだ交流とまではいかないが、今後の課題でもある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、在宅訪問し、事前アセスメントを行い課題を抽出し、入所後、環境変化の戸惑いから不安、心配事が可能な限り軽減できるようかわりを多く持ち、訴えやすい環境の場を提供し、以前の生活ペースに近い状態で過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居中に込み、事前アセスメント時に、家族の取り巻く環境、困っている事等を予め把握し、入所の際は、ご家族はどのような生活スタイルを希望しているのかケアの方向性を確認している。また、面会時には、家族から見た入居者の様子を確認し、より良いサービスが提供できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少人数のアットホームな施設であるため、個々の入居者にかかわる時間にゆとりが持て、個人の希望、意向等に添うサービスを提供している。また、一方的な介護を行うのではなく、機能レベルに見合った何かを一緒に行う事で喜びを分かち合い信頼関係を構築している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後、本人と家族の絆が途絶えないように、いつでも面会、外出、外泊等が気軽に行えるよう積極的に推奨している。イベント等の参加はもちろん、お手紙や年賀状の交換、電話での連絡も自由にできるよう取り計らっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記同様		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の入居者の性格や生活パターンから馴染みの関係が形成されている。特に過度の認知症を患っている方は、孤立しがちなため、適宜、職員介入のもと、他者との交流が図れるよう支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何らかの事情により契約が終了し退去されてもホームに来設、外出先でご家族とお会いした時は可能な限り相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望は違うため他者と共同生活を送っていく上で弊害がなければ可能な範囲で意向が実現できるよう努めている。他者に影響を及ぼす場合は、本人に理解できるように試行錯誤の支援を繰り返し行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前アセスメントをもとに、生活パターンを把握し、入居後の日常生活の様子の中から何か問題点が発生していないか状況把握に努め、以前の暮らしに近い生活が維持できるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の入居者の暮らし方に先入観を持たず、その生活変化に注意し、状態に見合ったケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンス、モニタリング、介護計画の実施、必要時は医療職の意見も参考にし、ケアプランに反映している。突発的な事に関しては、緊急カンファレンス、小さな事でもショートカンファレンスを開催し状態と対応の共有を図っている。また、医療機関の情報、家族の意向についても面会時、急変時は電話連絡により意向確認の反映に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には時系列で詳細内容を記載するようにしている。また、必要時は記載事項を参考に定期、緊急カンファレンスを開催し、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	口頭から入居者の様子、家族の取り巻く環境を察し介護のやり方には、白、黒といった明確な答えはなく、グレーである事を念頭に試行錯誤しながら、問題解決の方向性を模索し状況によってはマニュアルに捉われないことなく臨機応変な対応が出来るよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるよう可能な範囲ではあるが、地域行事への参加を行っている。また、不定期ではあるが、ハーモニカボランティアの方が慰問に来てくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に現在のかかりつけ医を継続するか、当ホームの協力医における往診に変更するか意向を確認、また、協力医の専門分野以外の病気に関しては引き続き家族対応で継続受診して頂けるよう説明している。病状により必要時は他の専門病院受診介助、家族による受診介助依頼と必要に合わせて対応している。また、24時間体制、往診も受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パート正看護師1名体制。介護職員は日々の様子を申し送り等で、看護師に伝達。医療的な事に関して具体的なアドバイスをもらい、初期対応、入居者の健康維持継続が図られるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は適時面会に伺い、病状の確認。長期入院における認知症リスクを避けるためにソーシャルワーカー、看護師等と密に連絡を取り合い情報収集等に努め、必要時はDrの意見も伺い早期退院に向け、いつでも受け入れできる体制作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にご家族等の意向確認、以降重度化となった場合、状態の変化に合わせ協力医と連携を図り終末期に向けた看取りを希望される場合には、ホームの看取り内容を紙面にて説明し、意志確認のもと同意書を交わしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者急変時の対応手順については、いつでもわかるようにスタッフルームのコルクボードに貼り付けてある。また、事故対応マニュアルの書式はすぐ取り出せる状況に配置し、社内研修として、事故発生時対応の勉強会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中、夜間想定避難訓練を消防署、防災設備業者の協力を得て実施している。また、消火器の取り扱い、非常通報装置等の使い方についてもその都度説明を受け実地訓練を行っている。各階には緊急連絡網や避難経路図を貼り非常時の受け入れ先として近隣の特養と契約書を交わしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりが穏やかで安心した生活が送れるよう言葉遣い、対応についても十分配慮したケアとなるよう環境も含め配慮している。接遇の在り方についてもその都度職員指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情などで思いをくみ取り一人ひとりの希望や意向が、様々な場面で確認出来る配慮、その中で可能な限り対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望する内容によっては全てその方に合わせることは出来ないことも多いが、その日、その時の個人の意思確認を尊重しながら個人ペースに沿う支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室を利用。男性では床屋にお連れしたりして整容に配慮。お化粧をされる方の化粧品の購入支援とその人らしい生活維持を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの機能に合わせ食事作りの下準備や食後の後片づけ等、入居者間での役割分担を生かしながら共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、彩り、一人ひとりに合わせた形態に配慮。硬い食材については、圧力鍋を利用し柔らかく提供。嚥下の状態によって、刻み食やミキサー食を提供。個人に合わせた量、食事時間にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後と個人の機能に合わせたケアを行っている。今年2月より口腔内チェックシートを導入し、入居者の口腔内環境の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄パターンを把握し支援している。夜間帯はオムツでも、日中は出来る限り、トイレでの排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝起床時には牛乳を飲用して頂き、毎日の食事メニューも食物繊維が豊富な野菜やきのこ類、豆類等を多く取り入れている。また、可能な人には近隣散歩やアクティブでの運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状は一人ひとりの希望に沿った対応とは言えないが、2~3日間隔で入浴できるよう支援している。冬季は3人夏季は4人入浴して頂いている。強い拒否や希望時は、その希望に沿った対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりがその時に応じて過ごしやすいように遮光カーテンやブラインドを利用し、採光調節、就寝時間の早い方への配慮として会話のトーン、物音、TV音量の調整等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬カレンダーに1週間分各個人ごと服薬セット。その都度担当者が与薬準備を行い、確実に服薬の支援。各個人薬手帳に処方内容薬シールの保管、処方時の文献管理などにより、各職員が内容確認出来る環境にある。また、Dr状況報告、内服調整の配慮も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、干し、掃除、料理の下準備、食後の後片付け等、それぞれの役割分担で好きなことの家事を行われる。その日の気分次第で無理強いはいしない。また、庭や玄関周りの落ち葉掃きや草むしり等、自然に自主的に行われることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブ、家族と外食外出、希望時の自宅外泊、外来受診等の外出、ホームでの外食外出、地域イベントへの参加、近隣散歩等、可能な限り閉じ込めない介護方針を目指し支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人の希望と、ある程度所持管理可能な方は、自己管理所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話対応や、希望によって家族への電話、手紙のやり取り等本人の希望に沿った支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に生活環境に配慮し、室温の設定や加湿に留意し、季節の草花を生けたりして、季節を感じて頂いたり、大きな深い音を出して驚かせない等配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のペースで、和室に寝転んでみたり、ソファでゆったり日光浴を楽しんだり、デッキでお茶をしたり、気の合った同士で会話を楽しんだりと、出来るだけ配慮や工夫を心掛け支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、その事大切さを家族に説明し、出来る限り、馴染みの品での環境作りを依頼している。家族写真を飾ったり、好みの品を飾ったりと思いの環境作りをされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置、水まわりと居室のドアの色を変える、夜間に於いてはトイレ入口上に照明を点ける等場所の認識、理解しやすい配慮工夫をしている。		